

## 史跡造山古墳第5古墳（千足古墳）の取組

岡山市教育委員会文化財課 草原孝典

### 1. 史跡造山古墳第5古墳（千足古墳）とは

墳長が 300 m を越える古墳時代中期の巨大古墳である造山古墳の陪塚とされる。明治 45 年（1912）に発掘され、多くの副葬品とともに九州系の横穴式石室に石障を伴い、間仕切り石に直弧文が施されていることが明らかとなった。墳丘は径 54 m の円墳とされていたが、測量調査や平成 24 年度に行われた範囲確認調査で、墳長 80 m の帆立貝形の前方後円墳であることが確認された。大正 10 年に史跡に指定。

### 2. 石室の構造

石室は、壁面に安山岩板石を持ち送りで積み、天井は玄室部 3 枚、羨道部 1 枚で構成し、玄室には砂岩製の石障を組んでいる。石障の平面形は、玄室と同様で長方形、中央に間仕切りを据え、棺床には 3 枚の砂岩製板石を敷く。ただし、奥壁部の石障は、安山岩製で、正面右側の石障と壁面の間にも安山岩製の板石を差し込んでいる。全室の床面は玄門にむかって緩やかな傾斜がつき、間仕切り石はその傾斜に対して直角となっている。石障上端は水平にすることを意識していることから、間仕切り石だけが上向きに設置されているように見える。それは、奥壁床面よりも高い位置にある入り口部から石室内を見た場合に、間仕切り石の直弧文が正面に見えるための角度を意識したための措置といえる。

また、発掘調査によって両脇の壁面に安山岩製板石を積んだ羨道部が確認されており、北九州の釜塚古墳のような古式横穴式石室であることが明らかとなった。北九州北部の古式横穴式石室に中部九州の石障が内蔵されているということになる。また、安山岩製板石は讃岐産という分析結果がでており、西日本のかなり広範囲の地域が関わらないと、この石室はできないということになる。

### 3. それまでの維持、管理状況

玄門部上部の壁面が掘削されたままで、そこから石室内部を見ることが可能であったが、通常は天井部分まで水が溜まっており、石室は水没した状態であった。石室の保存上、その状態が良いという理解が広まっていた。そのため、通常は水を抜かず、水没した状態を維持し、調査、研究などで必要な場合のみ水を抜いて見学を許可するという対応を行ってきた。墳丘については、年 2 回の草刈り除草をおこなっている。

#### 4. 石障破損発見と緊急避難措置までの経緯

平成21年10月：石障間仕切りの直弧文が破損していることを発見  
平成22年 7月：第1回保存整備委員会開催  
平成22年 9月：第1回作業部会開催  
平成22年11月：墳頂部から十字方向にトレンチ調査  
平成22年11月：第2回保存整備委員会開催  
平成22年12月：第2回作業部会開催  
平成23年 2月：第3回作業部会開催  
平成23年 3月：第3回保存整備委員会開催→石障間仕切り石の緊急避難方針を決定  
平成23年 4月：第1回作業部会開催  
平成23年 5月：第2回作業部会開催  
平成23年 6月：石室上面の盗掘壙を発掘調査  
平成23年 6月：第1回保存整備委員会開催  
平成23年10月：第3回作業部会開催  
平成23年10月：第2回保存整備委員会開催  
平成23年11月：現状変更の許可  
平成23年11月22日：緊急避難措置作業開始  
24日：石障間仕切り石の表面にフェーシングを行う  
石室内部の保護フレーム及び櫓設置  
12月 9日：天井石2枚の移動・間仕切り石の間詰め石取り外し作業  
12月10日：石障間仕切り石を石障ベットに入れる  
12月11日：石障ベットを石室から搬出、移動  
12月12日：石障間仕切り石の台石を設置  
12月13日：天井石を元に戻す  
12月20日：盗掘壙埋め戻し完了  
平成24年 1月：フェーシングを除去し、石障間仕切り石直弧文を確認

#### 5. 課題と問題点

- ・現地保存との整合性
- ・客観的データの収集と把握
- ・委員会の運営形態
- ・作業実施形態
- ・情報開示
- ・成果の周知化
- ・映像記録の作成

## 史跡造山古墳第五古墳（千足古墳）整備計画

|                                                                                 | 事業費(千円) |
|---------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 平成22年度：・石障、石室、墳丘基礎調査<br>・墳頂部発掘調査（墳丘土壌調査）                                        | 5,500   |
| 平成23年度：・石障取り外し作業及び保存処理施設への移動<br>・墳頂部（盗掘墳）発掘調査                                   | 39,500  |
| 平成24年度：・造山古墳群保存管理計画の作成（2ヶ年）<br>（古墳群の測量）<br>・覆屋整備工事<br>・範囲確認のための発掘調査（重要遺跡範囲確認調査） | 21,416  |
| 平成25年度：・造山古墳群保存管理計画の作成（2ヶ年）<br>・千足古墳保存整備工事基本設計<br>・範囲確認のための発掘調査（重要遺跡範囲確認調査）     | 17,170  |
| 平成26年度：・発掘調査報告書の作成（重要遺跡範囲確認調査）<br>・石障レプリカ作成<br>・追加指定                            |         |
| 平成27年度：・追加指定地の公有化                                                               |         |
| 平成28年度：・保存整備工事施工1（墳頂部の工事）                                                       |         |
| 平成29年度：・保存整備工事施工2（石室入り口部の工事）                                                    |         |
| 平成30年度：・保存整備工事施工3（墳丘部の整備）                                                       |         |
|                                                                                 | 263,935 |

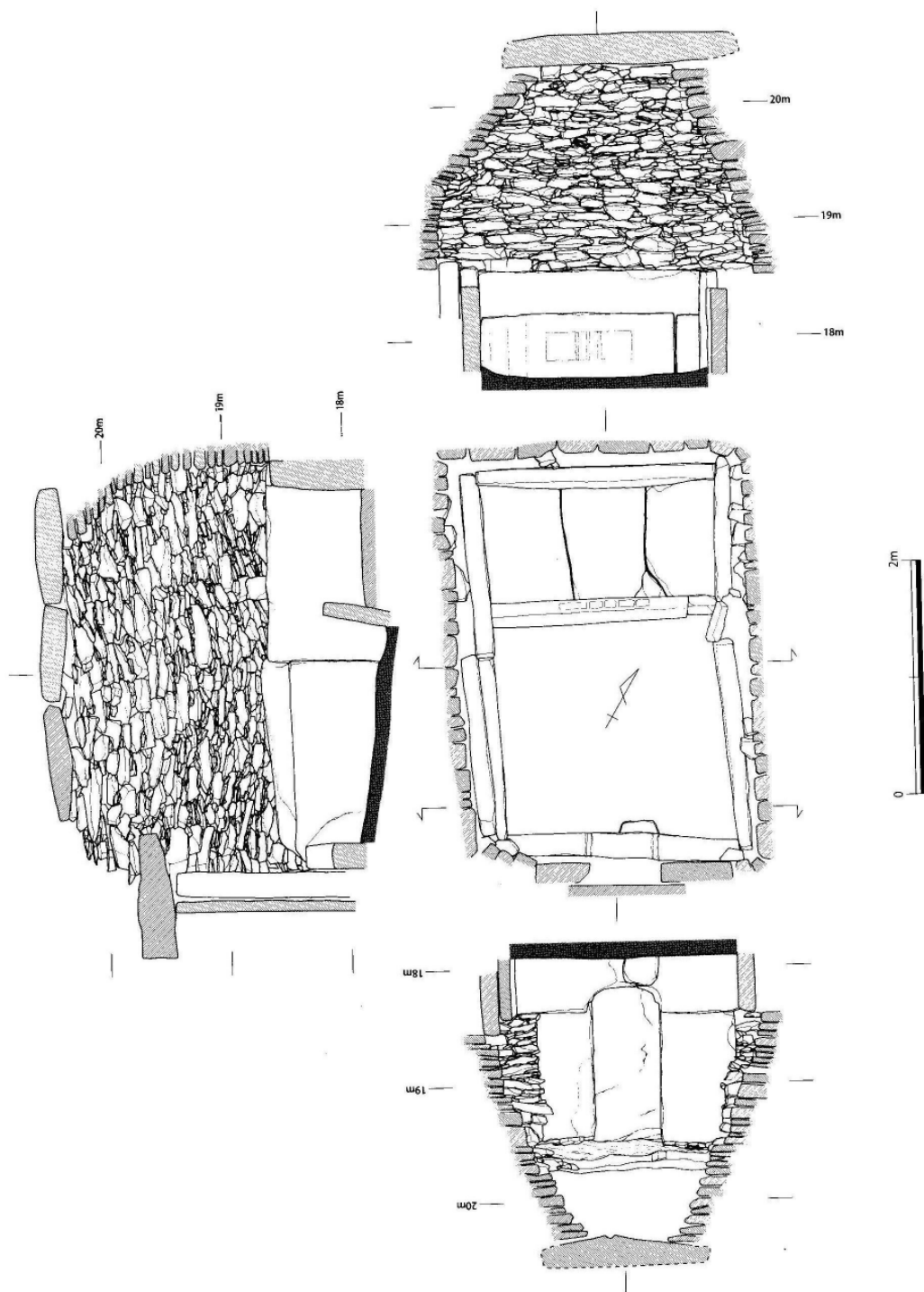


图 1 石室実測図

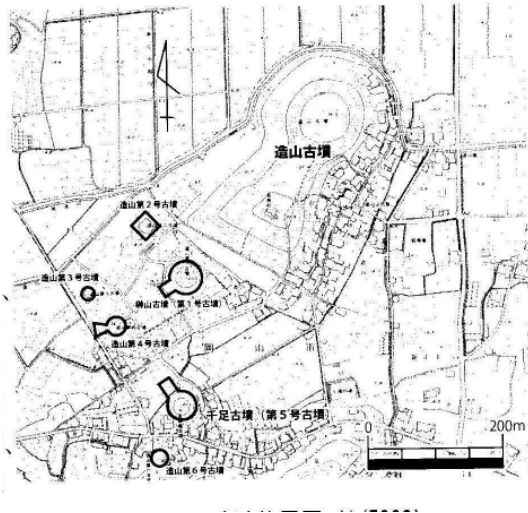


図2 位置図

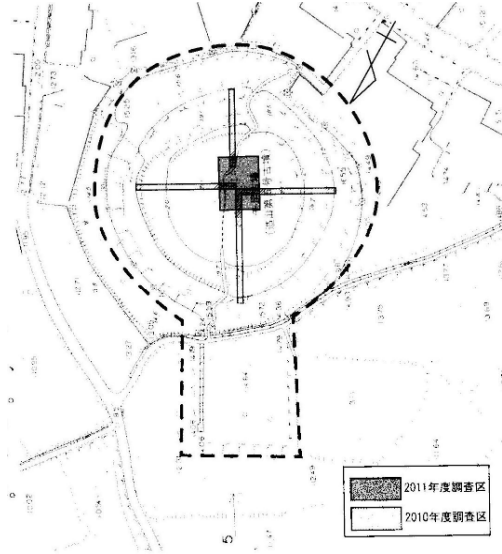


図3 トレンチ配置図

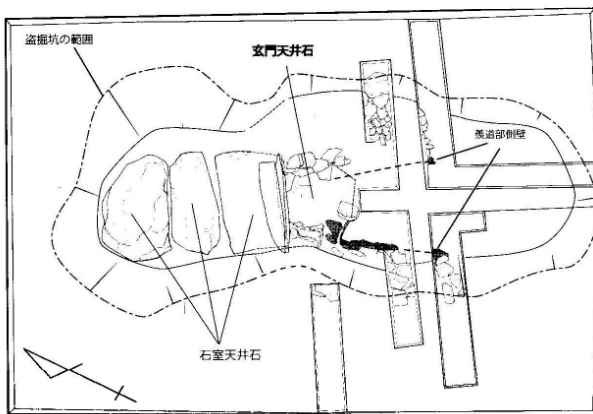


図4 石室上面調査区

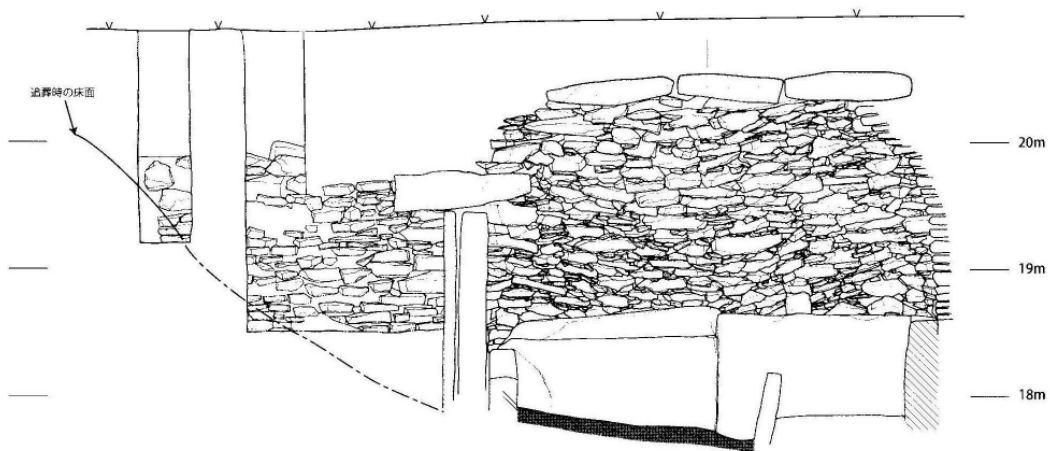


図5 石室従断面

## 千足古墳石障緊急避難措置













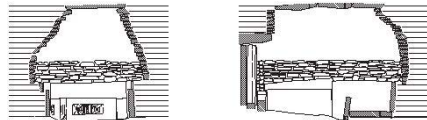
(①盛土上面に敷石据え付け→石壁据え付け段階)



(②石壁縦方向の側石据え付け段階)



(③石壁周囲に盛土→石壁上面から板石積み上げ段階)



(④盛土、板石積み上げ→天井石据え付け段階)

図6 石壁構築手順







